

## キャリアリスクマネジメントのための「起業家能力」の有用性の研究

A study on the usefulness of "entrepreneurial ability" for career risk management

基盤工学専攻 起業マネジメントコース 飛河 智生

雇用の流動性の高まりが指摘される中、うまくキャリア形成ができないといったキャリアリスクに直面している社会人が増加しており、今後も AI・ロボットなどの活用が活発になることから、ますますこの傾向は強まると予想される。一方、企業の人材育成能力は低下しており、自分の人材育成は自己責任の時代にもなっている。

このような激動する社会で、若者がより活躍するためには、現在大学で行われているキャリア教育は十分なのであろうか。もし不足している部分があるとしたら、それには起業家教育を行うことで補えるのではないか。

企業内教育力の低下、雇用流動性の上昇、イノベーション人材要望の高まりといった社会の変化は、企業と個人の基本的な関係を変化させた。個人はより社会を意識し、直接向かい合う意識と行動が必要となった。また、その中で、キャリアリスクをマネジメントするためには、3分野6領域の素養が必要となる。それは、

- 【1】 社会に関する知識—[1] 社会の動向・社会のニーズ、[2] 会社・ビジネスの基礎知識
  - 【2】 社会で自らを位置づける力—[3] 社会における自らの価値、[4] 自らのセルフポジショニング力、
  - 【3】 社会への貢献意欲—[5] 社会貢献意識、[6] あきらめない精神・プロ意識、である。
- これらをキャリアリスクマネジメント（CRM）素養と呼ぶ。

では、CRM 素養を学修する機会が大学でのキャリア教育で提供されているのか。キャリア教育は基礎的・汎用的能力といった基礎的な力を教育する、いわば人間の OS を育てる教育であり、CRM 素養はアプリケーションの位置づけとして考えられる。その意味ではキャリア教育は必要であるが、CRM 素養を育成するには十分とは言えない。また、キャリア教育自体もまだ十分に提供されておらず、体制構築の途上である。

一方、起業家の特性は CRM 素養とよく似ており、起業家の能力を身に付けることがキャリアリスクマネジメントに対して有用である。その素養を身に付けるには、「強い意志で何かに挑戦し、失敗し、それを乗り越えていく経験」が最も重要である。しかしながら、大学で実施されている起業家教育は、多くの大学がエクステンション的な位置づけで、また座学中心であり、CRM 素養の学修には十分とは言えない。

これからの社会人がキャリアリスクマネジメントをしていくためには、多くの学生が受講するキャリア教育において、CRM 素養の修得を目的とした新たな起業家教育を提供することが必要である。